



第6次大野地区地域福祉活動計画



目次

はじめに

第1章 大野地区の現状

第2章 第5次大野地区地域福祉活動計画の評価

第3章 第6次大野地区地域福祉活動計画策定経過

第4章 第6次大野地区地域福祉活動計画

第5章 進捗管理

はじめに

平素は、大野地区社会福祉協議会の事業推進にご支援ご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、この度「第6次大野地区地域福祉活動計画」を策定いたしました。策定にあたり策定委員会並びに小委員会を立ち上げ、第5次計画の振り返りと評価をもとに、引き続き取り組む施策に新たに生じた課題への対策を追加し、5つの重点項目に再編・整理し、わかりやすい計画といたしました。

大野地区は、市内でも少子高齢化が最も進んでおり、人口減少によりスーパーマーケットの閉店や小学校・幼稚園の統合など、日常生活にも大きな影響が表れており、この間の新型コロナウイルス感染症の影響と相まって、地域の繋がりや活力が以前にもまして**失われてきています**。また、近年、異常気象に伴う大規模災害も頻発しており、災害時の要配慮者支援が課題となっています。

一方、この地域には松江総合医療専門学校や大野の郷などの地域資源があります。専門学校の協力等を得ながら住民の健康づくりやフレイル予防などに取り組んでいくことができます。また、本年4月からは、AIデマンドバスの運行が開始となり、自宅近くのバス停から古江のAコープまでの乗車が可能となります。こうした地域資源や事業を活用しながら、自然豊かなこの地で、お互いに支え合いながら、生きがいをもって安心して暮らせるよう、取り組みを進めてまいりたいと考えます。皆さまの一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、本計画の策定にあたりご指導をいただきました、松江市社会福祉協議会の担当者様、松江市健康推進課の担当保健師様、松江総合医療専門学校様をはじめ、策定委員の皆様には貴重なご意見をいただき、心からお礼を申し上げます。

令和6年3月

大野地区社会福祉協議会
会長 兼折 功一



【第1章】 大野地区の現状

大野地区は、令和5年10月末現在の人口が、1,083人と市内29公民館区の中で最も少ない状況です。一方65歳以上の高齢化率は48.09%と最も高くなっており、人口減少、少子高齢化が急速に進んでいます。島根県が構築した「しまねの郷づくり応援サイト」上で示された、30年後の2052年の大野地区の人口推計では354人となっており、今より7割近く減少するという大変ショッキングな数字が出ており、人口減少に拍車がかかっている状況であります。このような状況の中様々な生活課題が顕在化しており、特に買い物支援や移動支援は喫緊の課題となっています。加えて、令和11年4月に大野、秋鹿、古江の各小学校、幼稚園の統合も予定されています。

地域資源に目を向けてみると、「松江総合医療専門学校」や特別養護老人ホーム「大野の郷」があります。専門学校は、平成10年に松江医療福祉専門学校として松江市が誘致開校し、現在看護学科、理学療法士科、作業療法士科の3科があり、約360名程度の生徒がここ大野の地で学んでいます。当地区で開催される健康づくりのイベントや各自治会で開催される「なごやか寄り合い」、高齢者クラブとの交流等に、積極的に参加していただき、地域づくりの一役を担っていただいているところです。また、「大野の郷」は、平成18年に50床の施設として開所し、福祉の充実を図っており、地域福祉活動を推進する上で引き続き連携を図ることが大事だと考えます。

さらに令和5年1月には、「農事組合法人ファーム大野未来」が設立され、営農活動はもとより地域貢献事業として「高齢者支援事業」等への参画等に期待するところです。

令和5年4月末現在

項目	大野地区状況
人口	1,083人 内訳：大野町449人、上大野町374人、魚瀬町260人
世帯数	494世帯 内訳：大野町194世帯、上大野町173世帯、魚瀬町127世帯
年少人口（0～14歳）	65人
生産年齢人口（15～64歳）	501人
高齢者人口（65歳以上）	530人
高齢化率	48.09%
高齢者世帯数	212世帯
独居高齢者世帯数	123世帯
小学校児童数	27人
自治会数・加入率	13自治会 加入率69.7%
高齢者クラブの状況	8単位クラブ 会員数101人
民生員数	8名
主任児童委員	2名
要介護認定者数・認定率	113人 20.8%

【第2章】 第5次大野地区地域福祉活動計画の評価

大野地区では、令和元年度に『いつもあなたのパートナー！みんなで作ろう福祉のまち大野』を福祉目標とし、第5次地域福祉活動計画を策定し、令和元年度から令和5年度までの5年間、10年後を見据えて全世代を対象に幅広く地域課題解決に向けて取り組んできた。しかし、この間新型コロナウイルス感染症が流行し、これまで当たり前に行われてきた活動が停滞もしくは休止する状況において、地域の「つながり」が希薄になってきている。第6次計画では「つながりの再構築」を念頭におきながら、地域に密着した活動を行うことで、誰もが住みたい、住み続けたい大野地区になるよう実践していきたい。

◆第5次大野地区地域福祉活動計画の重点項目

1. 見守りネットワーク

- ①相談体制の充実
- ②なごやか寄り合い事業
- ③要配慮者避難支援者研修会の開催
- ④生活環境の充実
- ⑤子育て支援
- ⑥児童の安心安全ネットワーク
- ⑦地区社会福祉協議会、民生児童委員、福祉推進員の連携
- ⑧ボランティアネットワークの開設

2. 健康寿命を延ばす

- ①健康づくり活動
- ②松江総合医療専門学校、大野の郷との連携
- ③福祉講座への参加

3. 生きがいづくり（支え合い）

- ①若者交流・定住対策
- ②世代間交流（地域イベント）

4. 伝える（共有する）

- ①社協だよりの発行、啓発チラシ作成
- ② 地域福祉活動計画の進行管理委員会

◆振り返りと評価（詳細は別紙）

- ・令和5年3月15日に第5次地区地域福祉活動計画推進委員会を開催
- ・第5次計画で「できていること」「改善点」についてグループごとにラベルワーク、全体共有

第5次大野地区地域福祉活動計画 振り返り(R5.3月 現在スローガン:いつもあなたのパートナー! みんなでつくろう福祉のまち大野

人口:1,144人
世帯数:513

~10年後を見据えた町づくり~

65歳以上のみ世帯:214
高齢化率47.47%

R4.3.31現在 松江市HPより

◎見守りネットワーク

区分	活動名	みんなの声(策定資料から)	目標	具体的な取組内容	評価	課題・改善点	実施・協力者(団体)	財源
充実	相談体制の充実	・問題事案が適切となる形で解決したのではないか。 ・年1回代表者会議を開く中、全体の情報を共有して工夫しながら地域で開催している。	・気軽に相談できる体制づくりをし、対応する	民生児童委員の毎月の定例会に於いても電話、面談などで適宜相談を受ける。 (相談事案について各機関もれの無いよう対応する)	定例会月1回 相談件数314件(R4.1月~R5.1月)毎回、市社協からの地区担当者が参加されることで、専門機関に繋げやすくなった。CSW新規対応:3件、包括新規対応:1件、把握2件		地区社協、公民館、民児協、福祉推進員、(保健師、市社協地区担当、包括支援センター)	市社協補助金 自主財源
充実	なごやか寄り合い事業	・なごやか9地区、お世話係の人達が熱心に取り組んでいる。 ・年1回代表者会議を開く中、全体の情報を共有して工夫しながら地域で開催している。	1)誰でも参加しやすいなごやか寄り合いづくり 2)全地域でなごやか寄り合いを立ち上げる	①案内チラシ作成 ②若い世代も参加しやすいよう内容を工夫する。 ③若いリーダー・世話人の方に応援をお願いします。 ④なごやか寄り合い世話人研修会、養成講座を開く。	なごやか寄り合いの会(31回) ①6地区チラシ作成 ②ボランティアセンター活用(3回) ③福祉推進員への協力依頼1回 ④市社協主催の研修会(1回)	・未実施地区への働きかけ(中ノ手・細原・鎌田)	地区社協、福祉推進員、民児協、なごやか寄り合い代表者会	市社協補助金 自主財源 参加費
充実	要配慮者避難支援者研修会の開催	・「誰がどこに避難して」各自主防災隊の中で把握していきたい。何かあった時(特に独居)日中の連絡先など各自主防災隊で防災世帯台帳を作る必要がある。 ・今後は各自治会で要配慮者支援事業の活用・災害時はもちろん、1番大切なのは平常時の見守り	・災害時に強い地域体制づくり	制度の説明会を開催する。 ①要配慮者支援推進事業に取り組み、平常時の見守り活動を推進する。 ②要配慮者、避難支援者の登録名簿を更新する。 ③自治会・自主防災隊との連携を図り各自治会ごとに避難訓練、介助方法などを研修し、平常時から災害時に備える。 ④訪問活動の強化(配食サービス事業・愛のプレゼント交流)	①殿山自治会のみ ②未実施 ③地区全体としては原子力防災訓練(1回) ④訪問活動の強化 ・配食サービス事業3回 実人数76人 ・愛のプレゼント交流1回 実人数35人		地区社協、公民館、民児協、福祉推進員、自治会連合会、自主防災隊 子ども会育成協議会	市社協補助金 自主財源 公民館 子ども会育成協議会
充実	生活環境の充実	大勢の方の要望に十分添えない所もあるが、出来る限り努めていきたい。	通院、買い物、交通の不便を解消する	①コミュニティバスの利用促進を図る ②予約型コミュニティバスの定着・利用しやすいダイヤの改正 ③地域の生活環境への点検(歩道・防犯灯・ガードレールなど)	①②R3年度4,290人(4月~3月)⇒R4年度3,187人(4月~2月) ③各自治会単位で対応	・R6.4月より秋鹿・大野地区エリアを統合したAIデマンドバス導入を検討中 ・買物支援の充実(秋鹿マーケット移動販売)	自治会連合会、自治振興協議会、コミバス利用促進協議会、地域安全推進委員会、交通指導員会	自治連合会、各種団体自主財源
充実	子育て支援	・少子化が進む中でも継続していきたい。	安心して子育てできる環境づくり	①子育てサロンの開設(きらきら学級)実施 ②児童クラブ月曜日~金曜日開設 ③子ども広場毎月月曜日開設	①子育てサロンの開設(きらきら学級)3回 ②児童クラブ月曜日~金曜日開設 ③子ども広場毎月月曜日開設	・子どもの居場所づくり(子ども食堂)の検討	地区社協、公民館、民児協、保健師、母子保健推進員、児童クラブ指導員、子ども広場安全管理員	市社協補助金 自主財源 公民館 行政
充実	児童の安心安全ネットワーク	・少子化が進む中でも継続していきたい。	児童の登下校の安全、安心、地域の見守り活動を推進する	登下校時の交通安全指導にあたる。 ①青色回転灯装備車により、巡回パトロールを毎月実施する。 ②朝のあいさつ運動を毎月実施する。 ③湖北中学校校区「一斉あいさつ運動」を毎月実施する。	登下校時の交通安全指導にあたる。 ①青色回転灯巡回パトロール(約60回) ②朝のあいさつ運動(約24回) ③湖北中学校校区「一斉あいさつ運動」(約10回)	・子育て支援の活動とひとくくりにはどうか?	地域安全推進委員会、小学校、中学校、PTA、青少年協、保護司、民児協、交通指導員、交通安全協会、更生保護女性会、公民館 秋鹿駐在所	各種団体自主財源
充実	地区社協・民児協・福祉推進員の連携	・自助・共助の観点からもより強い連携がとれれば……。	・相互の連携を図り、よりきめ細やかな活動を推進する	①民生児童委員・福祉推進員・行政・地区社協と情報交換会を年2回開催する。 ②高齢者要配慮者の見守り訪問活動の情報の共有化を図る。 ③民生児童委員と福祉推進員の連携を密にする。	①②③民生児童委員・福祉推進員・行政・地区社協と情報交換会年1回6月開催		地区社協、公民館、民児協・福祉推進員	市社協補助金 自主財源
新規	ボランティアネットワークの開設	有償ボランティア制にすれば……高齢者の生きがいづくりに繋がる	ボランティアネットワーク設立に向けての仕組みづくり	日常の困りごとに対応できるメンバーや仕組みづくりを協議し開設に繋げる	未実施	運協の関連部と連携で進める	地区社協、公民館、ボランティアグループ関係者	市社協補助金 自主財源

◎健康寿命を延ばす

区分	活動名	みんなの声(策定資料から)	目標	具体的な取組内容	評価	課題・改善点	実施・協力者(団体)	財源
充実	健康づくり活動	・お知らせ君やポスターで、検診受診率アップ。 ・一部の人だけで、地域全体の健康づくりが出来ていないのでは…。機運の情勢を図っているいろいろな角度からのアプローチが必要	1)健康寿命を延ばす 2)家族、地域で声をかけあってみんな受診率の向上を図る	体力づくりを進める ①松江総合医療専門学校と連携した健康づくり②適度な運動・総合型スポーツとの共催。活動の参加。 ③食生活を見直し料理講座を開催する。④松江総合医療専門学校・医師・カウンセラーによる健康講座を開催する。 ⑤健康診断受診率周知活動の実施。 ⑥町民スポーツ大会の開会式時などに健診PRや重要性を話す時間を設け、若者への健康づくり意識向上を図る。	体力づくり ①タオル体操・脳トレ、見学、なごやか代表者会(3回) ②ウォーキング、その他毎月、定期スポーツ ③料理教室(1回)11名 ④健康講座(1回)30名 ⑤周知活動(9回) ⑥未実施	引き続き、健康まつえ21推進隊等関係団体と連携を図る。	健康まつえ21推進隊 公民館、保健委員、食生活改善推進員、輪・和・ワークラ、保健師、体育協会、松江総合医療専門学校、大野高齢者クラブ連合会 年金受給者協会	市社協補助金 自主財源 公民館
充実	松江総合医療専門学校 大野の郷との連携	大野地区にある素晴らしい医療教育資源なので、更なる住民の健康意識向上を目指し今まで以上に支援したい。お互いにメリットがあるように… ・大野の郷…買い物支援対策 ・医専…なごやか寄り合い会での講師 ・健康づくり講座	・健康フェスティバル、なごやか寄り合い会、買い物支援等で連携を深める	①松江総合医療専門学校 ・おおの健康フェスティバル ・健康講座・なごやか寄り合いの会に定期的に指導協力を要請する。 ・各種スポーツ、地域イベントへのボランティア参加、健康づくり活動への支援 ②大野の郷「買い物支援対策」の連携 ③福祉への理解を深める為、幼児・小学生・地域住民が体験交流を実施	①松江総合医療専門学校 ・おおの健康フェスティバル スポーツ、地域イベントへのボランティア参加、健康づくり活動への支援 (1回) ・健康講座・なごやか寄り合いの会に定期的に指導協力(1回中止) ②大野の郷「買い物支援対策」 未実施 ③未実施	①なごやかで出来る内容リストを依頼中	地区社協、公民館、福祉推進員 松江総合医療専門学校 大野の郷	市社協補助金 自主財源 公民館
新規	福祉講座への参加	・福祉講座の開催は長年やり続けてきたが、内容も各地区共通して少々マンネリ化してきた所がある。もう十分やったのでは？ ・いろいろな所で開催される講演会参加を選択しながらうけた方がいいのでは？	タイムリーな情報収集と周知徹底	①各講座の情報収集・情報提供で、より学びたい内容の講座に参加していただく。 ②専門学校へ講座の依頼	①福祉推進員代表社会、研修 7回 松北ブロック研修 1回 ②依頼中(学校のスケジュール、対応可能講座内容を確認中)		地区社協、公民館 健康まつえ21推進隊、行政・医療機関 松江総合医療専門学校	市社協補助金 自主財源

◎生きがいがづくり

充実	若者交流・定住対策	実行委員会によっては、各々に動いている。	・魅力ある町(ふるさと)づくり	①おおの夏まつりを開催する。 ②若者ご縁の集い。 ③スポーツイベントを通じた若い世代の交流づくり。 ④ふるさと学習	①～④ 未実施		夏まつり実行委員会、自治振興協議会、幼稚園、小学校、湖北中学校、体育協会 青少協、公民館、地区体協	自主財源 公民館
充実	世代間交流 (地域イベント)	・全体的に概ねできているので継続したい。 ・高齢者の皆さんが牛蒡づくりなどを通して小学生に学びを体験する機会を提供するなど	・地域住民が気軽に参加できるイベントにする	①各種スポーツイベント・町民体育祭他、各種クラブ活動の開催 ②おおのふるさと祭りの開催 ③敬老会の開催 ④世代間歴史学習講座	①6月町民G・G大会開催81名 10月町民ニュースポーツ大会開催46名 各種クラブ活動の開催 ②代替事業開催100名 ③配付のみ ④未実施		公民館、体育協会、幼稚園、小学校、中学校、地区社協、輪・和・ワークラ、各種団体	市社協補助金 自主財源 公民館

◎伝える(共有する)

充実	社協だよりの発行 啓発チラシ配布	・今まで通り継続	・社協の活動状況を地域にタイムリーに周知し、地区活動への参加を要請する	地区社協・小地域の福祉活動状況を周知する	社協だよりの発行(2回) 公民館だよりの(12回)でも福祉活動状況を掲載し周知できた		地区社協、公民館、民児協、福祉推進員	市社協補助金 自主財源
充実	地域福祉活動計画の 進行管理委員会	・計画を年1回は振返って見直しをかける必要がある。	第5次地域福祉活動実施計画の着実な進行を図る	毎年2月に策定小委員会を開き計画の振り返り、見直しを図る。	2月の策定小委員会で計画の振り返りをし、第6次策定に向けて協議。		地域福祉計画策定委員会	市社協補助金 自主財源

第6次大野地区地域福祉活動計画表（計画期間：令和6年度～令和10年度）

スローガン：1人ひとりが支え合い みんなでつくろう福祉のまち大野

◎見守りネットワーク体制の充実

区分	活動名	目標	具体的な取組内容	実施・協力者（団体）
充実	相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に相談できる体制づくり ・民生児童委員、福祉推進員、専門職との連携を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員が電話や面談などで適宜相談を受ける ・民生児童委員、福祉推進員合同研修会の開催 ・専門職との連携 	民児協 福祉推進員 公民館 地区社協 保健師、市社協、包括支援センター
充実	なごやか寄り合い事業の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが参加しやすいなごやか寄り合いづくり ・全地区でなごやか寄り合いの立ち上げ 	<ul style="list-style-type: none"> ・世話人研修会の開催 ・誰もが参加しやすい内容を取り入れる ・案内の声掛け方法の検討 ・他集落と交流（未実施地区も） ・松江総合医療専門学校や大野の郷からの講師派遣 	地区社協 民児協 福祉推進員 なごやか代表者 松江総合医療専門学校 大野の郷
充実	平常時からの見守り活動	<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員、福祉推進員の連携を図り、きめ細やかな活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問活動の強化（配食サービス事業等） ・配食サービスを活用してフレイル予防やお役立ち情報提供 ・民生児童委員、福祉推進員の合同研修会による情報の共有 	地区社協 民児協 福祉推進員
充実	災害時対応	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に備える体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・要配慮者への支援体制づくり ・自治会、自主防災隊と連携し、防災訓練等の実施 	地区社協 公民館 民児協 福祉推進員 自治協会 自主防災隊 災害対策本部

◎健康寿命を延ばす

区分	活動名	目標	具体的な取組内容	実施・協力者（団体）
新規	自分に合った運動を取り入れる 栄養バランスのよい食生活の実践 質のよい睡眠をとる	自分にあった健康づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区体協事業への参加（体協行事の種目検討） ・ 総合型スポーツクラブ活動への参加 ・ 健康まつえ21との連携 ・ 「食」についての講座開催 ・ ストレス軽減に繋げる事業の開催 	体育協会 輪・和・ワークラブ 健康まつえ21推進隊 地区社協 公民館
充実	検診（健診）受診率の向上	自分の健康状態を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報活動の強化 告知放送の活用 小学生による広報 検診日程ポスター作製および掲示 チラシ作製および配布 様々な機会を通じた広報活動 ・ 「るるくる」活用の取り組み強化 学校や大野の郷との連携 	健康まつえ21推進隊 地区社協 保健師 松江総合医療専門学校 大野の郷
新規	介護予防、認知症対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ なごやか寄り合い等、地区の会合に取り入れる ・ 認知症の理解を深める ・ 対象者の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康調査の実施、対象者に合ったプログラムの提供 ・ フレイル測定会実施 ・ なごやか寄り合いやからだ元気塾への参加に繋げる 	地区社協 健康まつえ21推進隊 公民館 松江総合医療専門学校 民児協 福祉推進員 なごやか代表者 保健師、市社協、包括支援センター からだ元気塾
充実	松江総合医療専門学校との連携 大野の郷との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療教育資源、福祉施設を活かして、住民の健康意識の向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ なごやか寄り合いへの協力 ・ 健康講座の開催 ・ 「るるくる」の取組み、「健康づくり」プログラムづくり 	地区社協 健康まつえ21推進隊 公民館 松江総合医療専門学校 大野の郷 民児協 福祉推進員 なごやか代表者 保健師、市社協、包括支援センター

◎生活環境の充実

区分	活動名	目標	具体的な取組内容	実施・協力者（団体）
充実	買い物支援対策	買い物難民の解消	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間による買い物支援 あいかマーケット移動販売、生協、三河屋など ・ 買い物難民の把握 ・ コンビニなど直販所の検討 ・ キャッシュレスの支払い方法の講座開催 	地区社協 公民館 移動販売事業者 コミバス利用促進協議会
充実	移動支援対策	交通の不便を解消する（買い物・通院など）	<ul style="list-style-type: none"> ・ AIデマンド型バスの導入、利用促進 ・ AIデマンド型バス乗り方講座の開催 	地区社協 公民館 大野の郷 コミバス利用促進協議会 自治協会
新規	ファームおおの未来との連携	生活課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者支援事業への協力 	ファームおおの未来 地区社協
新規	生活課題に対応できる組織体制づくり	生活課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有償ボランティア組織の検討 ・ 先進地視察 ・ 事例調査、アンケートの実施 	地区社協 公民館 民児協 福祉推進員 市社協、包括支援センター
新規	社会インフラ整備	住みよいまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路の拡幅、危険箇所の調査（安心、安全） 	松江市 自治協会

◎地域で子どもを育む

区分	活動名	目標	具体的な取組内容	実施・協力者（団体）
充実	小学校や関係団体等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定住に繋げる ・ 地域で子どもを育てる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児学級（きらきら学級）への参加促進 ・ 居場所づくり事業の周知 （子ども広場、児童クラブ、みんなの食堂） ・ 子どもの安心安全対策（登下校時見守り活動等） ・ eスポーツを取り入れる 	地区社協、公民館 民児協、保健師 母子保健推進員 児童クラブスタッフ 子ども広場スタッフ 地域安全推進委員 小学校、中学校 青少協、保護司 交通指導員、駐在所 高齢者クラブ

◎地域の活性化を図る

区分	活動名	目標	具体的な取組内容	実施・協力者（団体）
充実	若者交流の場づくり 定住対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域を知り、これからも安心して楽しく生活できる魅力ある町づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生、高校生、大学生が地域（公民館）とつながる仕組みを作る ・ 若者リーダーの育成 ・ 若者が自主的に企画、運営をしたイベントの開催 ・ 婚活イベントの実施 ・ 若者向け補助制度創設 ・ 三四会の立て直し 	自治協会 小学校、中学校 体育協会 青少協 公民館 地区社協
新規	空き家の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家の把握 ・ 定住対策に繋げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家調査 ・ 活用方法の検討 	自治協会 公民館
充実	世代間交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰もが気軽に参加できるイベントの企画、開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区体協事業への参加 ・ 総合型スポーツクラブ活動への参加 ・ 高齢者交流事業 	体育協会 小学校、中学校 輪・和・ワークラブ 地区社協

【第3章】第6次大野地区地域福祉活動計画策定経過

第6次大野地区地域福祉活動計画策定に向け、策定委員会を設置し、策定小委員会、策定委員会を開き、第5次大野地区地域福祉活動計画の振り返りをもとに、整理を行った。

第5次大野地区地域福祉活動計画の重点項目と現状と照らし合わせて見直し、更に今後の課題を追加して取り組みやすい計画づくりを行った。

策定スケジュール

日時・場所	会議名	内容
令和5年3月15日(水) 10:00~12:00 大野公民館	第5次大野地区地域福祉活動計画推進委員会	第5次振り返り 第6次策定スケジュールについて
令和5年8月8日(火) 15:00~16:00 大野公民館	第1回 策定委員会	委嘱状交付 概要説明 第5次振り返り 第6次策定スケジュールについて 小委員会設置 健康まつえ21基本計画地域ヒアリング
令和5年11月14日(火) 14:00~16:00 大野公民館	第1回 小委員会	第5次振り返りの整理 第6次計画の素案について 健康まつえ21基本計画地域ヒアリング 結果報告 グループワーク(重点項目について)
令和5年12月8日(金) 18:30~ 大野公民館	第2回 策定委員会	第6次計画の原案策定について グループワークのまとめ報告
令和5年12月26日(火) 19:00~ 大野公民館	大野地区自治協会 理事会	第6次計画について説明 各種団体に意見取りまとめ
令和6年1月~2月		各関係団体からの意見取りまとめ
令和6年2月15日 松江総合医療専門学校		第6次計画の原案について意見聴取
令和6年3月27日(水) 大野公民館	大野地区社会福祉協議会理事会	第6次計画(案)承認
令和6年4月 大野公民館	大野地区社会福祉協議会総会	説明、共有 総会后、全戸配布

第6次大野地区地域福祉活動計画小委員会 グループワークまとめ [令和5年11月14日(火)実施]

重点的取組み	活動名	既存事業に対するご意見	新規取組みのご意見
見守りネットワーク体制の充実	相談体制の充実	・民生委員、福祉推進員、福祉関係機関での情報交換会（年1回でも定着）	・日頃の活動や悩みについてカフェでも開き気軽に話し合う
	なごやか寄り合い事業の開催	・担い手不足	・なごやか寄り合いをたまには他集落と交流（未実施地区も）
	平常時からの見守り活動		・配食の際に、フレイル予防やお役立ち情報をセットで ・要配慮者を地区毎にマップにおとして共有する ・要配慮者リストの活用ができないか
	災害時対応	・災害時、一人暮らしの高齢者への安否確認の実施（自治会長、民児協）	
健康寿命を延ばす	自分に合った運動を取り入れる 栄養バランスのよい食生活の実践 質のよい睡眠をとる	・体協行事の種目の検討	
	検診（健診）受診率の向上		
	介護予防、認知症対策の推進		・集える場所づくり
	松江総合医療専門学校との連携 大野の郷との連携	・大野の郷で行っていた買い物支援は、事故や保険の関係上、現在は難しい	・「るるくる」を学校、大野の郷でも取り組む ・健康づくりを学校とプログラムづくりする ・大野の郷からなごやかへの講師派遣
生活環境の充実	買い物支援対策	・買い物支援と配食サービスがいい形で一緒にならないか	・各地区で買い物に行ける人、行けない人を把握する ・高齢者への買い物支援 ・地元コンビニ⇒みんなで出し合う ・Aコープで2千円以上購入すると配達してくれる ・買い物の中継地点を設けてまとめてくれる所があるとよい ・コープが毎週月曜日大野地区へ来るので活用できないか
	移動支援対策	・コミバスの土、日の利用率が少ない	・AIデマンド乗り方講座 ・通院支援
	ファームおおの未来		・ファームおおの未来との連携
	生活課題に対応できる組織体制 づくり		・困りごと対応など ・生活ニーズの調査、アンケートの実施 ・社会インフラの整備（道路が狭い）
地域で子どもを育む	小学校や関係団体等との連携	・スポーツ大会の復活（レベルを変えるなど参加しやすく） ・きらきら学級を土日に行うと参加しやすい人もいるかも ・子ども会などのイベントに、保護者も一緒に参加してもらう	・ニュースポーツを取り入れる ・子ども食堂×eスポーツ
地域の活性化を図る	若者交流の場づくり 定住対策		・出会いの場をつくる ・人づくり、リーダーの育成 ・若者向け補助制度を作る（交流会、イベント） ・三四会の立て直し ・高校、大学生が公民館とつながる仕組み作り（情報発信） ・小規模でのお茶飲み会 ・イベントを完全に若者に任せてみる（30代位） ・中、高校生に公民館を使ってもらおう工夫（夏休み、冬休み中の自習スペースとして）
	空き家の有効活用		
	世代間交流		・野菜作りの講習会（植付～収穫）

【第4章】

第6次大野地区地域福祉活動計画（計画期間：令和6年度～令和10年度）

スローガン：1人ひとりが支え合い みんなでつくろう福祉のまち大野

重点的取組み

活動名

具体的な取組み

見守りネットワーク体制の充実

- ・相談体制の充実
- ・なごやか寄り合い事業の開催
- ・平常時からの見守り活動
- ・災害時対応

- 相談体制の充実
 - ・民生児童委員が電話や面談などで適宜相談を受ける
 - ・民生児童委員、福祉推進員、専門職との連携
- なごやか寄り合い事業
 - ・世話人研修会の開催
 - ・誰もが参加しやすい内容を取り入れる
 - ・他集落と交流（未実施地区も）
 - ・松江総合医療専門学校、大野の郷からの講師派遣
- 平常時からの見守り活動
 - ・訪問活動の強化
 - ・合同研修会による情報の共有
- 災害時対応
 - ・要配慮者への支援体制づくり
 - ・防災訓練等の実施

健康寿命を延ばす

- ・自分に合った運動を取り入れる
- ・栄養バランスのよい食生活の実践
- ・質のよい睡眠をとる
- ・検診（健診）受診率の向上
- ・介護予防、認知症対策の推進
- ・松江総合医療専門学校、大野の郷との連携

- 「自分に合った運動」「バランスのよい食生活」「質のよい睡眠」
 - ・地区体協事業への参加
 - ・総合型スポーツクラブ活動への参加
 - ・健康まつえ21との連携
 - ・「食」についての講座開催
 - ・ストレス軽減に繋げる事業の開催
- 検診（健診）受診率の向上
 - ・広報活動の強化
 - ・「るるくる」活用の取組み強化
- 介護予防、認知症対策の推進
 - ・なごやか寄り合いやからだ元気塾への参加に繋げる
 - ・健康調査の実施、対象者に合ったプログラムの提供
 - ・フレイル測定会実施
- 松江総合医療専門学校、大野の郷との連携
 - ・なごやか寄り合いへの協力
 - ・健康講座の開催
 - ・「るるくる」の取組み、「健康づくり」プログラムづくり

生活環境の充実

- ・買い物支援対策
- ・移動支援対策
- ・ファームおおの未来との連携
- ・生活課題に対応できる組織体制づくり
- ・社会インフラ整備

- 買い物支援対策
 - ・民間による買い物支援
 - ・買い物難民の把握
 - ・コンビニなど直販所の検討
 - ・キャッシュレスの支払い方法の講座開催
- 移動支援対策
 - ・AI デマンドの導入、利用促進
 - ・AI デマンド乗り方講座の開催
- ファームおおの未来との連携
 - ・高齢者支援事業への協力
- 生活課題に対応できる組織体制づくり
 - ・有償ボランティア組織の検討
 - ・先進地視察
 - ・事例調査、アンケートの実施
- 社会インフラ整備
 - ・道路の拡幅、危険箇所の調査

地域で子どもを育む

小学校や関係団体等との連携

- ・乳幼児学級への参加促進
- ・居場所づくり事業の周知
- 子ども広場
- 児童クラブ
- みんなの食堂
- ・子どもの安心安全対策（登下校時見守り活動等）
- ・eスポーツを取り入れる

地域の活性化を図る

- ・若者交流の場づくり
- ・定住対策
- ・空き家の有効活用
- ・世代間交流

- 若者交流、定住対策
 - ・中学生、高校生、大学生が地域とつながる仕組み作り
 - ・若者リーダーの育成
 - ・若者が自主的に企画、運営をしたイベントの開催
 - ・婚活イベントの実施
 - ・若者向け補助制度創設
 - ・三四会の立て直し
- 空き家の有効活用
 - ・空き家調査
 - ・活用方法の検討
- 世代間交流
 - ・体協事業、輪・和・ワーククラブの事業へ参加
 - ・高齢者交流事業の実施

【第5章】計画の進捗管理

計画策定後、毎年第6次大野地区地域福祉活動計画の「推進委員会（メンバー：第6次大野地区地域福祉活動計画策定委員）」を開催し、事業の進捗状況や課題等について話し合い、計画の進捗管理を行う。